

Newsletter No. 3

Maxillofacial Prosthetics

発行人 谷口 尚

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第52回理事会だより

平成 18 年 2 月 24 日(金), 東京医科歯科大学外来事務棟 3 階小会議室において, 日本顎顔面補綴学会 第 52 回理事会が開催された。各委員会報告から, 機構検討委員会, 編集委員会および会務報告をお伝えする。

委員会報告

機構検討委員会



後藤 昌昭

機構検討委員会委員長

機構検討委員会では, 「学会名称変更」, 「法人化」, 「認定制度」, 「会員増加の方策」など多くの懸案事項を抱えております。

学会名称変更に関しましては, これまでの顎顔面補綴学会の活動範囲を考慮すると, 顎顔面形態の回復から咀嚼, 嚥下, 発音機能の回復までを扱っており, 本学会が頭頸部疾患の治療の一翼を担っていることは明かです。したがって口腔顎顔面リハビリテーションと言う名称が相応しいとい

う意見も当然です。一方, 口腔顎顔面リハビリテーションの中で, 顎顔面補綴装置の果たす役割は重要であり, 本学会は顎顔面補綴装置を適切に製作することができる技能集団であるにとらえ, 顎顔面補綴学会という名称を存続させるべきとの考えもあります。学会名が変わりますと学会雑誌の名称も変えることとなり, 過去の業績が曖昧になる危険性もあります。このような事情から機構検討委員会では学会名変更の是非に関して結論を得るに至っておりません。顎顔面補綴という言葉自体が一般の人には理解できない言葉です。読むことも難しいかもしれません。それでは誰にでも理解できるようにということで, 補綴をやめて入れ歯という言葉に変えても, 本学会の活動範囲を正確に表現できていないように思います。結局は**顎顔面補綴**と言う名称が最適なのかなと考えてしまいます。

医学, 歯学の多くの学会が法人化し, 認定医あ

るいは専門医制度を実施しています。認定医制度に関しては以前より議論されていたようですが、本学会のように、補綴、口腔外科、技工士から構成される集団において認定制度を確立することは容易ではありません。むしろ、補綴学会、口腔外科学会の認定医制度において、本学会での活動を必須とすれば、会員も増加し、会費納入率も上昇するように思います。

「法人化」をなぜ急いで行わなければならないかという疑問が生じますが、法律によって権利能力が与えられていない団体では今後、活動や発言が社会的に認められなくなるからです。任意団体であり続けることは、税法上何となく曖昧にできていたという面があります。しかし、その会の存在自身が社会的に認知されたものではありません。社会的に認められるように情報を発信し、口腔顎顔面リハビリテーションの中心的な役割を果たし続けようとする時、任意団体のままで良いとはいえません。法人になるメリットは、法律による社会的信頼、補助金・寄付金交付や委託事業の受託、団体名義でのサービス物品購入の団体契約、不動産の団体登録が可能になることなどです。顎顔面補綴領域で使用材料であるシリコンの認可の問題などを解決する際にも、まずは学会が法人化されておく必要があると思います。

日本顎顔面補綴学会が目指せる法人は3つあります。[社団法人]、[中間法人]、[NPO 法人]ですが、規模や財務状況から考えると、[NPO 法人]が最もふさわしいように思います。手続きや体制作りに時間を要する[社団法人]を最終的に目指すとしても、まず法人格を得るために[NPO 法人]になっておくというのが得策であるといえます。[NPO 法人]を目指すにあたっては、定款作りとそのための体制作りを開始する必要があります。定款は現在の学会規則を基本とし

て、法律の専門家の助けを借りて作り進めることになります。定款案ができしだいホームページで公開し、文科省の指導を仰ぐことも必要だと思います。さらに、最も重要なことは、法人化については会員の十分な合意が必要です。会員との意見交換に関しては、ホームページを通じて行えばよいと思います。[NPO 法人化]への十分な体制づくりと意見の一致を見た上で、総会で法人設立総会に切り替えることを提案し、多数決の上承認が得られれば、法人化へ申請する方向を取ることになります。法人化について機構検討委員会でも十分な討議を行っていませんが、多くの情報を集めて前向きに検討していかねばならないと考えています。

編集委員会



鈴木 規子

編集委員会委員長

私は26巻1号の発刊時に編集委員長を拝任しました。3年経過した

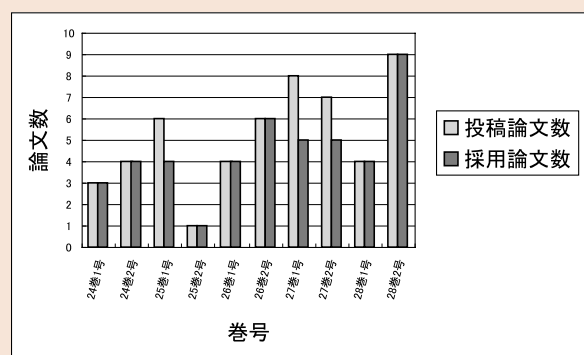
28巻1号の編集委員会において雑誌サイズ変更の提案があり、1978年から26年間続いてきたB5版の雑誌をA4版（国際サイズ）へと変更することが急遽決定されました。このことは28巻1号のNewsletterですでお知らせしました。急なことでしたので表紙のデザインは従来のものをそのまま利用し、大きさを拡大するような形となりました。今後も継続的に改善が必要と思いますが、現時点では文字のサイズが大きくなったため読みやすく（高齢化していく会員にはとくに読みやすい）、心配した雑誌の厚さも背表紙に問題なく文字がはいる程度まで確保され、28巻2号

では投稿論文数も増えたこともあって、いままでにないボリュームとなりました。学会誌として充実してきたように思います。加えて、投稿規定も現状に合うように改定を加えました。とくに倫理規定や国際化に伴い英文の規定の変更です。今後とも学会誌に関する会員の皆様からの活発なご意見をお願いいたします。

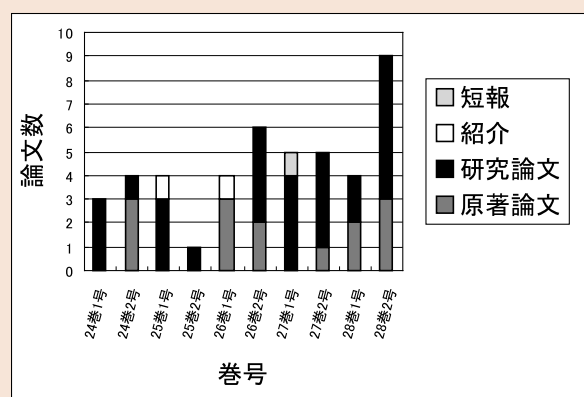
編集委員会としては論文投稿については会員の皆様のご協力により、投稿数が増加傾向をたどり、とくに原著論文の投稿が増えているのは喜ばしいことと感じています。掲載される論文数も、あわせて増えております。編集委員会では「ぜひ掲載させよう!」「より良い内容で」とのなみなみならぬ思いで、編集作業をおこなっています。具体的には、照会事項作成や論文加筆によって投稿された原論文の内容を改善していきます。査読の回数を経るにつれ、みごとにお化粧名直しされ、掲載可となるものが少なくありません。特に今回の号では2月の編集委員会では採用と内定された論文が5編中1編しかありませんでしたが、再々査読まで至った論文も含めて、投稿論文すべて掲載と致しました。多様なジャンルにおよぶ学際的な仕事の発表をとくに歓迎いたします。最近の歯科技工士や歯科衛生士の方々による投稿などはとくに喜ばしい傾向です。今後とも多くの会員からの活発な投稿をお願いいたします。

投稿の際には、編集委員のメンバーの労力が軽減されるように論文の様式、内容に関する十分な検討をぜひともお願いいたします。

過去5年間の投稿論文数と掲載論文の推移は以下の通りです(表参照)。論文数が増加していますが、とくに原著論文の増加が目立っております。これは学会誌として望ましい方向と考えます。



投稿論文数推移 (2001年～2006年)



採用論文内訳 (2001年～2006年)

会務報告

会員動向

(2005年1月1日～12月31日)

a) 正会員 573名 (2004年末604名)

新入会員 46名

退会者 77名 (年会費8年以上滞納者
26名含む)

b) 賛助会員 7社

(長田電機工業(株), (株)ジーシー, (株)松風, (株)城南歯科商会, ノーベル・バイオケア・ジャパン(株), (株)モリタ, 一ツ橋印刷(株))

会費納入状況 (2005年1月1日～12月31日)

総入件数 473件

2005年度納入件数		納入率	
1999年度分	1件	480件	83.7%
2000	3	460	80.2
2001	3	459	80.1
2002	4	471	82.1
2003	13	468	81.6
2004	48	448	78.1
2005	144	421	73.4
2006	251	262	45.7
予納金	6	8	1.3
合 計	473件		

会費請求 第1回 05. 03. 08

第2回 05. 06. 17

第3回 05. 10. 26

第4回 05. 12. 27

受賞者の声

平成17年度優秀論文賞

服部麻里子

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面顎部機能再建学系専攻
顎顔面機能修復学講座顎顔面補綴学分野

論文題名 Development of an automatic speech intelligibility test system using a computerized speech recognition technique.



(コンピュータ音声認識技術を利用した発語明瞭度自動検査システムの開発)
顎顔面補綴 28 巻 2 号 :
46 ~ 58 2005

この度は、日本顎顔面補綴学会平成 17 年度優秀論文賞という大変光栄な賞を戴き、誠に有難うございます。

顎欠損患者のリハビリテーションにおいて、発話は、咀嚼、嚥下、審美と並び患者の QOL に重大な影響を及ぼす要因の一つであることは周知されており、我々の外来では発話能力の評価法の確立を目指し、Formant を用いた音響分析や、心理音響システムを用いた発話評価といった客観的評価法と共に、従来法である発語明瞭度検査を行ってきました。

発語明瞭度検査とは、患者の発音する日本語 100 単音節を録音し、5 人から 10 人の検査者が聞き取りを行う検査であり、特別な機器を必要とせず簡便で、発話能力を的確に評価することができるという点から、従来から頻繁に用いられてきた評価法でした。しかしながら、聞き取り検査に多大な時間と労力がかかることが、この検査法の欠点であり、診療中に検査を行っても、聞き取り検査が即座に行えるわけではないために、検査結果を直ちに得られず、検査結果を反映できるのは次回来院日となっていました。つまり、義歯の試適や調整を行う際に、リアルタイムで構音障害に関する客観的評価を行いながら調整を行うことは難しいのが現状でした。

そこで、コンピューターの音声認識技術を用いることで、直ちに検査結果が得られるシステムを開発できたらと考え、音声研究チームにおいて本研究に着手致しました。途中、コンピューター特有の誤認識等に悩まされつつも改良を重ね、また高齢者も使いやすいようにと、ディスプレイの文字を大きくするなどの工夫をし、システムを完成させました。

今回の論文ではシステムを上顎欠損患者 17 人の発話能力評価に実際に用い、結果を検討しまし

た。本システムを用いることで、聞き取り検査なしに直ちに結果を得ることができるというメリットが得られるだけでなく、聞き取り検査者の能力による検査結果の変動を防ぐことも出来るようになりました。

現段階では、人の聞き取りと比較すると認識率が低いことといった課題も残っておりますが、今後のコンピューター技術の進歩とともにさらに改良されたシステムを将来的には構築していけるのではないかと考えています。

受賞にあたり、選考して頂いた先生方に感謝申し上げますと同時に、論文の掲載にあたり丁寧に査読を行っていただいた編集委員の先生方、また、谷口教授をはじめとする同門の先生方のご助言ご指導に深く感謝申し上げます。

今後共、受賞致しましたことを励みに、更なる研究についても意欲的に進めて参りたいと考えております。心よりお礼申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻賜りますことを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

第23回学術大会

日 時：平成 18 年 6 月 23 日，24 日

総会長：久保吉廣（徳島大）

場 所：長井記念ホール（徳島大学薬学部）

〒 770-8505

徳島県徳島市庄町 1 丁目 78 番地の 1

Tel：088-633-7245

プログラム（予定）

I. 特別講演

「日本顎顔面補綴学会の変遷」

日時：6 月 24 日（土）

講師：田中貴信先生（愛知学院大学歯学部教授）

II. 教育研修会

テーマ「口蓋裂の形態的・機能的回復」

座長 冲本公繪（九州大学大学院）

（1）口唇裂・口蓋裂の形成外科的治療

中西秀樹（徳島大学医学部形成外科）

（2）口蓋裂患者の補綴治療に関連した口腔
外科手術

吉増秀實（東京医科歯科大学歯学部）

（3）口蓋裂の補綴治療

石上友彦（日本大学歯学部）

（4）口蓋裂の機能回復

舘村 卓（大阪大学大学院）

III. 一般講演

次回学術大会

第 24 回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会

日時 平成 19 年 7 月 20 日（金），21 日（土）

場所 盛岡市民文化ホール（小ホール）

岩手県盛岡市盛岡駅西通 2 丁目 9-1

マリオス内

関連学会案内

国内学会

●第 17 回日本老年歯科医学会 総会・学術大会

日 時：平成 18 年 6 月 1 ～ 2 日

会 場：沖縄コンベンションセンター

大会長：砂 川 元

お問合せ先：琉球大学医学部顎顔面口腔機能再建学

●第 30 回日本頭頸部癌学会（旧日本頭頸部腫瘍学会），第 27 回頭頸部手術手技研究会

日 時：平成 18 年 6 月 14 ～ 16 日

会 場：大阪国際会議場

大会長：吉野 邦俊

お問合せ先：大阪府立成人病センター 耳鼻咽喉科

●第115回日本補綴歯科学会 総会・学術大会

日 時：平成18年7月7～9日

会 場：札幌コンベンションセンター（札幌）

大会長：平井 敏博

お問合せ先：北海道医療大学歯学部補綴Ⅰ

●第40回日本味と匂学会大会

日 時：平成18年7月11～13日

会 場：九州大学医学部百年講堂

大会長：二ノ宮 裕三

お問合せ先：九州大学歯学研究院

●日本スポーツ歯科医学会 第17回学術大会

日 時：平成18年7月15～16日

会 場：岩手県歯科医師会館

大会長：石橋 寛二

お問合せ先：岩手医科大学

●第19回日本顎関節学会総会・学術大会

日 時：平成18年7月18～21日

会 場：名古屋国際会議場

大会長：亀山洋一郎

お問合せ先：愛知学院大学歯学部

●第19回日本口腔・咽頭科学会

日 時：平成18年9月6～7日

会 場：京王プラザホテル

大会長：吉原 俊雄

お問合せ先：東京女子医科大学耳鼻咽喉科

●第12回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

日 時：平成18年9月8～10日

会 場：川崎医療福祉大学

（川崎祐宣記念ホール・講義棟他）

大会長：熊倉 勇美

お問合せ先：川崎医療福祉大学

●第36回日本口腔インプラント学会総会・学術大会

日 時：平成18年9月16～17日

会 場：新潟コンベンションセンター朱鷺メッセ

大会長：畑 好 昭

お問合せ先：日本歯科大学 新潟歯学部

●第55回日本口腔衛生学会・総会

日 時：平成18年10月6～8日

会 場：千里ライフサイエンスセンター

大会長：雫 石 聡

お問合せ先：大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学教室

●第51回（社）日本口腔外科学会総会

日 時：平成18年10月12～13日

会 場：ウエルシティ小倉，北九州市立男女共同参画センター，小倉歯科医師会館

大会長：福田 仁一

お問合せ先：九州歯科大学

●第23回日本障害者歯科学会総会および学術大会

日 時：平成18年10月20日～

会 場：仙台国際センター

大会長：齊 藤 峻

お問合せ先：東北大学病院障害者歯科治療部

●第17回日本咀嚼学会学術大会

日 時：平成18年10月28～29日

会 場：鶴見大学会館

大会長：鈴木 敏之

お問合せ先：学校法人 鈴木学園

国 際 学 会

●7th International Congress on Maxillo-facial Rehabilitation

October 12-15, 2006, Maui, Hawaii

<http://www.ismr-org.com>

歴代会例および総会

日本顎顔面補綴研究会例会および総会

日本顎顔面補綴研究会例会および総会

1976 年 第 1 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1976 年 第 2 回例会

(世話人) 瀬戸皖一 (鶴見大学)

1977 年 第 3 回例会

(世話人) 大西正俊 (医科歯科大学)

1977 年 第 4 回例会

(世話人) 大山喬史 (鶴見大学)

1977 年 第 5 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1977 年 第 6 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1977 年 第 7 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1977 年 第 8 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1977 年 第 9 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1977 年 第 10 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1978 年 第 11 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1978 年 第 12 回例会

(世話人) 田中貴信 (医科歯科大学)

1978 年 第 13 回例会 (1 回総会)

(大会長) 瀬戸皖一 (鶴見大学)

1978 年 第 14 回例会

(大会長) 田中貴信 (医科歯科大学)

1979 年 第 15 回例会

(大会長) 瀬戸皖一 (鶴見大学)

1979 年 第 16 回例会 (2 回総会)

(大会長) 大西正俊 (医科歯科大学)

1979 年 第 17 回例会

(大会長) 増田正樹 (横浜)

1980 年 第 18 回例会 (3 回総会)

(総会長) 古田 勲 (札幌)

1980 年 第 19 回例会

(総会長) 岡部貞夫 (埼玉がんセンター)

1981 年 第 20 回例会 (4 回総会)

(総会長) 鷺津邦男 (東京)

1981 年 第 21 回例会 (5 回総会)

(総会長) 大山喬史 (医科歯科大学)

1982 年 第 22 回学術大会 (6 回総会)

(総会長) 田中貴信 (愛知学院大学)

1982 年 第 23 回学術大会 (7 回総会)

(総会長) 坂東永一 (徳島大学)

1983 年 第 24 回学術大会 (8 回総会)

(総会長) 田辺晴康 (慈恵医科大学)

日本顎顔面補綴学会総会

1984 年 第 1 回総会

(総会長) 大畑 昇 (北海道大学)

1985 年 第 2 回総会

(総会長) 埜口五十雄 (防衛医科大学)

1986 年 第 3 回総会

(総会長) 奥野善彦 (大阪大学)

1987 年 第 4 回総会

(総会長) 古田 勲 (富山医薬大学)

1988 年 第 5 回総会

(総会長) 大山喬史 (医科歯科大学)

1989 年 第 6 回総会

(総会長) 大西正俊 (山梨医科大学)

1990 年 第 7 回総会

(総会長) 田中貴信 (愛知学院大学)

Newsletter No. 3

Maxillofacial Prosthetics

1991年 第8回総会

(総会長) 瀬戸皖一 (鶴見大学)

1992年 第9回総会

(総会長) 平井敏博 (東日本学園大学)

1993年 第10回総会

(総会長) 白川正順 (町田市民病院)

1994年 第11回総会

(総会長) 石橋寛二 (岩手医科大学)

1995年 第12回総会

(総会長) 都 温彦 (福岡大学)

1996年 第13回総会

(総会長) 坂東永一 (徳島大学)

1997年 第14回総会

(総会長) 田辺晴康 (慈恵医科大学)

1998年 第15回総会

(総会長) 野首孝祠 (大阪大学)

1999年 第16回総会

(総会長) 小野 繁 (横浜市立大学)

2000年 第17回総会

(総会長) 清野和夫 (奥羽大学)

2001年 第18回総会

(総会長) 香月 武 (佐賀医科大学)

2002年 第19回総会

(総会長) 大山喬史 (医科歯科大学)

2003年 第20回総会

(総会長) 瀬戸皖一 (鶴見大学)

2004年 第21回総会

(総会長) 松浦正朗 (福岡歯科大学)

2005年 第22回総会

(総会長) 石上友彦 (日本大学)

2006年 第23回総会

(総会長) 久保吉廣 (徳島大学)

2007年 第24回総会

(総会長) 水城春美 (岩手医科大学)

2008年 第25回総会

コンテンツ

委員会報告	1
会務報告	3
受賞者の声	4
学術大会案内	5
関連学会案内	5
歴代会会および総会	7

・学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せ下さい。

・「会員からの声」記事募集しています。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 冲本公繪

委員 伊藤創造, 松山美和, 山森徹雄

幹事 諸井亮司

TEL:092-642-6371, FAX:092-642-6374

E-mail: rmoroi@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座

咀嚼機能制御学分野